

---

# 姉のしてくれた話

長月 タ子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

姉のしてくれた話

### 【Nコード】

N9161A

### 【作者名】

長月 夕子

### 【あらすじ】

あるところについてもさびしそうなちいさいうしがありました。てんきのよいひでも、こやのなかでうずくまり、めをとじていました。きれいなおつきさまのでてるよる、こおろぎがきれいなこえでなきました。

あるところにいつもさびしそうなちいさいうしがありました。てんきのよいひでも、こやのなかでうずくまり、めをとじていました。きれいなおつきさまのでてるよる、こおろぎがきれいなこえでなきました。

「なんてきれいなおつきさまだ」  
とつてもたのしそうです。

こおろぎがうたいながらくさのなかではねておりますと、ちいさなこやのなかにちいさなうしがありました。

「うしさんうしさん、どうしてそんなにさびしそうにしてるんだい？　こんなにつきがきれいなのに！」  
するとうしがいいました。

「ぼくはひとりぼっちなんだ。さびしくてさびしくてしかたがないんだ」

こおろぎはうしがとてもかなしげにいうのをきいて、いいことをおもいつきました。

「あしたのよる、もういちどくるからたのしみにしていてよ！」  
つぎのひのよる、こおろぎはやくそくどおりやってきました。ちょっとねくたいをしめています。

「うしさん、みていてね」

こおろぎがあいずのようにうたいますと、くさむらからつぎつぎにたくさんのこおろぎがはねて、いつせいにうたいました。すてきなおんがくかいのはじまりです。おどりだしたくなるほどたのしいがつそうでした。うしもっぱをふりまえあしをならしとてまたのしいきもちになりました。

「こおろぎさんありがとう。ぼくもうさびしくないよ」  
こうしてうしはそれからたのしくくらししました。

姉は小さい頃から沢山の物語を書いていた。この話は5歳の時に

書いたものだ。幼稚園で作ったのか、よくできましたのスタンプが押してある。

姉の物語はどれも優しく楽しく、ひどい事悲しい事は一つも無い。姉自身もまた優しく、困っている人を放っておけない。姉は人の悲しみの淵でそれを覗き込むのではなく、その悲しみまで降りていてしまう人だった。

窓際に姉が座っている。春の光がその輪郭をなぞっている。産毛がきらきらと光り、髪が静かな風に揺れている。空ろな瞳で虚ろな青空を見上げて。

姉は突然物語を書くことをやめた。そして世の中の全てに対して蓋をしたように、黙って空を見上げ続ける人となった。どんなことが彼女に起こり、なぜそうなってしまったのか、私には分かりえない。

姉の幼い字を指でたどる。このお話の中で一番優しかったのは、心配してくれたこおろぎではなく、相手の気持ちを100%受け取ってこれからは頑張れると言った牛かもしれない。それが即ち、姉の苦しみだったのだろうか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9161a/>

---

姉のしてくれた話

2010年11月16日08時16分発行